

大分県立高等学校第三者評価【評価書B】

大分県教育委員会

評価実施年度	令和 2 年度	学校名	大分県立 日出総合 高等学校	
学校教育目標	知育・徳育・体育のバランスのとれた教育を実践し、一人一人の個性の伸長と他者との協働を図るとともに、豊かな人間性とグローバルな感覚を備え、社会の発展に貢献する人材を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	教科等横断的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の使命や価値、時代や社会のニーズ、学校の教育課題等を踏まえ、明確な学校経営ビジョンが策定されているか。 ○学校の教育目標によって育成を目指す資質・能力が明確にされ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・「地域に求められる学校づくり」を中核に据えて、地域と連携して豊かな教育を展開し、社会(地元)の発展に貢献する人材の育成を目指す学校経営ビジョンは整合的がとれて明確であり優れている。 ・学校と社会(地元)を結び付けようとする「HIJI SO GOOD！！プロジェクト」の取り組みは、生徒面接の声から窺うと生徒自身の自信、学校と郷土に誇りを持ちうる活動と捉えられており、生徒や教職員の能力を引き出すことに繋がっており、教職員は一丸となって教育目標の達成に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域に求められ選ばれる学校」を掲げ、「HIJI SO GOOD！！プロジェクト」を中心とした学校を挙げての取り組みを通して、保護者や地域と協働して、社会(地元)の発展に貢献する人材の育成を目指し、取り組みを深化させる。 ・「HIJI SO GOOD！！～」を合言葉に、生徒が自分自身や学校、郷土に誇りと自信を持つことができるように、校長のリーダーシップのもと生徒・職員・保護者が一緒になった組織的な取り組みを継続・発展させていく。
	PDCAサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の抱える課題解決に向けて目標の重点化が図られ、自己評価・学校関係者評価等を活用して検証・改善が行われているか。 ○着実な学校改善が図られるよう、校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・基本的な生活態度の育成は組織的な努力で生徒は規律を守って落ち着きがあり、授業に集中している。 ・重点化目標に関する自己評価および学校関係者の評価を実施して検証と改善は検討している。ただ、コロナ禍のために実施できない行事があり、低い評価にとどまった項目もあった。 ・授業活性化の構想は優れており、短期的なPDCAサイクルを活用して進捗状況を把握しつつ授業改善を着実に進め、その成果を早急に生徒に還元することが大いに求められる。 ・生徒に関する情報共有の会議は、人数を制限してでも時間割内に組み込みことは喫緊の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもとミドルリーダーが生徒の規範意識の向上につながる新たな企画・立案を行い、全職員でベクトルを合わせた取り組みを徹底して行う。 ・評価に基づく検証改善した事項を取り組みに反映させ、重点化目標の達成に組織的に取り組む。 ・授業改善組織委員会において授業活性化の構想をよりよいものにするために短期のPDCAサイクルを実施し、検証・改善を行う。 ・生徒に関する情報共有の会議は、毎週定例で開催できるよう年度当初に時間帯やメンバーを設定する。
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> ○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用や、学校便りの発行など、情報の伝達・公開を適切に行っているか。 ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・中学校等との連携や地域の外部人材を活用した取組を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・「HIJI SO GOOD！！プロジェクト」の成果は、HPや各種の新聞を通して、生徒の活躍の様子がこまやかに地元をはじめ、県内にも発信されている。 ・学校行事の様子、学校だより、保健だより、学年だよりもHPを利用して時を移さず保護者や地元へ伝えられている。 ・また、中学校と連携して高校の魅力的な活動や入試の概要を伝えるとともに、外部人材を活用し、保護者による学校評価も的確に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアやSNS、紙面等での情報発信に加えて、生徒が活躍する姿を直接見学する機会を通じた学校の情報発信に重点を置き、日出総合高校のさらなるイメージアップを図る。 ・母校で高校説明会などの今年度から始めた取り組みの定着を図り、日出町内の中学校への魅力発信を更に活性化させる。 ・生徒、保護者、地域への認知度をアンケートなどで確認し、PDCAサイクルを活用する。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体としてPDCAサイクルを活用し、組織的に取り組んでいるか。 ○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・授業活性化の視点と教科の特性に踏まえた学習習慣の定着を展望した授業構想は優れている。授業毎の評価表も取り入れ、短期的なPDCAのサイクルを活用して改善を図り、その成果を早急に生徒に還元することが喫緊の課題である。 ・授業を参観した限りでは、授業の目標と振り返りを板書し、授業の目的は明確である。教材の提示用のICT画面は字の大きさや行間の狭さで見やすいとは言えないものもあった。また問いを持たせる発問や課題の提示に工夫が乏しいように思われる。応答する授業の場が余りにも少ない。 ・今育成すべきは生徒の熟識する力、熟考する力であり、単なる理解の教育でない。そのためには、課題解決的な文脈で授業の流れを構想し、教科の特性を踏まえてすべての生徒の授業参加を促すような場面設定、導入の問い・発問の工夫が求められる。また、生徒の思考活動が保証されるグループ学習など場面の設定も探求されねばならない。 ・iPadによる手際良い教材提示はすばらしい。iPadを用いた問題解決的な授業の工夫が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回訪問時のご指導から検討を行い作成した「各教科における授業改善6つアクションの共通認識による取り組み」「各学科・各教科課題一覧と学習習慣定着に向けた課題と運動した授業構想」の冊子を実践する。特に授業構想を重点的にを行い、1時間毎・単元毎に共通の振り返りシート等を用いて、短期のPDCAサイクルを実践し、各自の授業改善に役立て、生徒に還元する。 ・年2回互見授業間で上記の実践内容をお互いに確認し、各自の検証、授業改善に役立てる。また引き続き指導主事を招へいた授業改善検討会を全教科で開催し、職員の授業改善への意欲換気の継続に努める。 ・ICT研修会を毎月開催し、電子黒板の利用やiPadの活用に関しても授業構想を図る。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・いじめはないが、若干の不登校の実態があり、専門家(SC、SSW)とも連携して適切な対応がなされている。 ・生徒集会において、コロナ禍の中のSNSの使用に関する指導を的確に行っている。 ・面接旬間の実施によって、担任が生徒の心理的变化を初期段階で把握し、学校として生徒情報を共有して組織的に生徒に寄り添う支援が着実に展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SC、SSW、医療や福祉などの専門機関と情報交換を行うとともに学校と連携して困りを抱える生徒、その保護者及び家庭環境へ効果的なアプローチができるよう取り組みを深化させる。 ・日々の生徒の観察に加え、学期初めの面接旬間を通して、担任が生徒の変化を早期に発見し、分掌と学年が連携して組織的に対応する。 ・ケース会議や委員会を定期的に開催するとともに生徒の情報共有はセキュリティの高い情報共有ツールを活用し、短時間で関係者全員が情報共有を図れるよう工夫する。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・交通安全の指導が全職員の参加の下で丁寧に行われ、それなりの効果をあげているが、バイクや自転車の事故が若干生じている。 ・危機管理マニュアルは見直しが行われてわかりやすく、緊急時に適切な対応ができるように整備されている。 ・一部の階段には滑り止めが取り付けられ、安全な通行ができるようになった。外廊下へのコウモリの侵入を防ぐ用具が生徒により考案され、衛生的にも優れた効果をあげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルは年度当初に全職員で内容を確認し、また年間を通じて内容の見直しを図り、変更点は職員へ周知する。 ・自転車の安全で適正な利用の条例に基づき、自転車を利用する全生徒のヘルメットの確認を行うとともに、交通安全教育に努める。 ・校内の安全な環境整備に必要な対策について、教育財務課へ要望を挙げながら改善を継続する。
信頼される学校づくり	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のストレステストの結果では、分掌の負担に偏りがみられ、教職員の配置に配慮が必要である。残業時間の短縮、年休取得に関する取り組みは、次年度にはプロジェクトを立ち上げて検討するとしている。 ・生徒に関する情報共有を密に図るために、時間の捻出には困難も伴うであろうが、優先事項として時間割の中に人数制限をしてでも会議の時間を組み込むことが緊要であり、仕事時間の削減にも繋がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織改善委員会において、業務改善シートを活用して各業務等の見直しを徹底する。 ・管理職がリーダーシップを発揮し、長時間勤務の原因(部活動や競技会前の実技指導など)を全職員で共有し、その改善に向けた自発的な取り組みを促すよう指導・助言を行う。 ・充実したICT研修を実施し、全職員のスキルを向上させ、業務量を減らしていく。
	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の状況について客観的なデータをもとにした詳細な分析が行われ、学校組織として適切な情報共有が図られているか。 ○低学力層に対する基礎学力を高めるための組織的かつ実効的な取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンウィークトライを実施して低学力層の様子を把握するとともに、2月からレインボープロジェクト(朝学習に週3日の基礎教科の学習)を立ち上げており、新年度には大いなる成果があがることが期待される。 ・授業中に素朴な概念や個人的な経験が生きるような、発言しやすい問いの工夫や雰囲気醸成に配慮すると、低学力の生徒の何気ない発言が授業を活性化するきっかけとなることは、本人が自信を持つ大切な契機となり、授業への参加と学習の意欲の向上につながる。授業者として魅力ある教材の開発と発問の工夫に時間をかけて準備することは極めて大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「HIJI SO GOOD レインボープロジェクト」は試行期間が終了し、本格実施となる前に年度当初に教職員で目的や実施などについて共通理解を図り、1月ごとのPDCAを繰り返しながら生徒の変容につなげていく。低学力層生徒への学力保障に始まり国公立大学への進学、公務員就職などの成果を挙げていけるよう組織的に継続して取り組む。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を取り巻く状況を踏まえた学校経営ビジョンは整合的で明確である。地域に根ざした魅力ある学校づくりに向け校長のリーダーシップが発揮されており、分掌主任も意欲的で全教職員が心を合わせて取り組んでいる。 ・授業を参観するかぎりでは、生徒は姿勢もよく学習に集中している。廊下などで出会っても、挨拶もよくでき、服装の乱れはなく、きちんとしている。 ・全教科にわたる互見授業の実施や、指導主事の助言を仰ぐ授業研究会を複数回実施するとともに、ICTの研修を複数回行ってiPadの利用授業の充実を図るべく、授業力の向上に努めている。 ・授業改善検討委員会がまとめた授業活性化の視点(6つのアクション)に立ち、学習習慣の定着にむけた教科の特性を踏まえた授業構想は優れている。個々の教員が授業改善の視点をそれぞれに焦点化して、授業毎の短期評価と単元または学期毎の長期評価を評価表に基づいて着実にを行うとともに、委員会としてPDCAを短期サイクルを活用して授業のステップアップを早急に図り、生徒に成果を還元することは喫緊の課題である。 ・隣接する「太陽の家」との交流を通して人間性を育む教育を行うとともに、「HIJI SO GOOD！！プロジェクト」として、学科、クラスや部単位の参加で大分空港や保健所へのプランターの寄贈、糸が浜海岸の清掃などのボランティア活動を行い、地元で大いに貢献している。 ・「HIJI SO GOOD！！プロジェクト」を含めた学校行事の優れた取り組みは、オンラインソフトteamsを用いてすべての生徒に伝達できる環境が整備されている。 ・玄関には花のプランターが並び、環境美化に努めているし、コロナ禍の中、部活動の入部率はやや低い自転車部・新体操部は優れた成績をあげており注目に値する。 ・校内外において、学習環境の安全、効率、整備にかかわる早急な改善が必要な箇所が複数見られる。(校内の階段の滑り止めシート、外廊下の転倒防止マットの不足、広大な法面の環境整備の煩雑さ、農業経営学科の実習場が郊外にあることによる学習機会の制限及び移動に用いるスクールバスの老朽化による安全面の不安がぬぐえず、農場の統合が無理ならばバスの更新をするなど) 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の第三者評価で頂いた指導助言を全職員で共有し、組織的に取り組んでいきたい。 ・「HIJI SO GOOD !!～」を合言葉に、生徒が学校での学びを活かした活動の様子を学校HP、学校だより等で情報発信するとともに、地域と連携した体験活動を通じて、学校と郷土に誇りを持つ生徒育成の取り組みを行う。 ・学校目標の達成に向け、校長のリーダーシップのもと、ミドルリーダーが参加し毎週開催する運営委員会を取組を協議し、風通しの良い職場環境の中、全職員がベクトルを合わせて目標達成に取組む学校組織を構築する。 ・授業改善組織委員会を中心として作成した「各教科における授業改善6つアクションの共通認識による取り組み」「各学科・各教科課題一覧と学習習慣定着に向けた課題と運動した授業構想」の冊子を実践し、基礎学力の定着に向けて確実に取り組みを一層推進していき、生徒の変容につなげ、地域に求められる人材育成に貢献する。 ・働き方改革に向けた組織改善委員会において課題を共有できる場として各業務等の見直しを徹底していきたい。また、ICTなどを活用して、業務量の軽減を遂行したい。 			